



Title	漢字教育におけるアクティブラーニングの一考察 : 「書く」「話す」アウトプットの実践から
Author(s)	小柴, 裕子
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2019, 17, p. 49-56
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71699
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

漢字教育におけるアクティブラーニングの一考察

—「書く」「話す」アウトプットの実践から—

A Study of Active Learning of Kanji:
From Practice of “Writing” and “Speaking”

小柴 裕子

【要旨】

大阪大学日本語日本文化教育センターにおいて、2017年度秋～冬学期の〈漢字で読み解く日本〉及び2018年度春～夏学期〈同音異字語（同音異義語）〉という2つの留学生向け授業を担当し、漢字教育に取り組んだ。その際、学生の主体的な参加を促すために、学生による板書やプレゼンテーションなどの“アウトプット”を積極的に取り入れた。

「覚える」というインプットに偏りがちな漢字教育において、板書やプレゼンテーションというアウトプットを取り入れた実践報告を述べ、また不十分であった点を考察し、今後の漢字教育におけるアクティブラーニングに役立てていきたい。

I. はじめに

筆者は大阪大学日本語日本文化教育センター（以下、センター）において、2017年度秋～冬学期の〈漢字で読み解く日本〉及び2018年度春～夏学期の〈同音異字語（同音異義語）〉（以下、〈同音異字語〉）を担当し、日本語・日本文化研修生（Jプログラム）、短期留学生（メイプル・プログラム）を対象としたクラス（JMクラス）の漢字教育に取り組んだ。

その際、学生の主体的な参加を促すために、学生による板書やプレゼンテーションなどのアウトプットを積極的に取り入れた。稲葉（2015）によると、プレゼンテーション活動による効果は、アウトプット（目標言語の産出）の機会を多く提供すること、学習者同士がインタラクションを通じて発表内容や言語理解を深めようとする、学習動機を高めること等とされている。つまり、プレゼンテーションでは「話す」アウトプットだけでなく、聞く側もインタラクションを通して、言語理解を深め、更なるアウトプットの機会につながると見込まれる。

〈漢字で読み解く日本〉の授業では、毎回テーマを決めて関連する漢字語彙を学習し、またテーマに関する議論の場を設け、各学生にプレゼンテーションを2回課した。センター実施の学生への授業アンケートで、学生からの評判がよかったことから、〈同音異字語〉でもプレゼンテーションを実施した。

〈同音異字語〉の授業で実施したプログラムとその結果を検討し、今後のアクティブラーニングの手法構築に役立てることが、本稿の目的である。

II. 先行研究

漢字教育に関しては、非漢字圏学習者と漢字圏学習者が混在するクラスにおける指導ポイントの実践研究（二村他 2017）や、漢字支援ソフトの開発に関する研究（河野他 2017）、またモチベーションに関する研究（北川 2016）といった多様な研究がある。一方、プレゼンテーションを取り入れた漢字教育といった研究は卑見の限りない。「読む」「書く」が中心とされていた漢字教育から、「話す」「表現する」という手法は離れていることが理由と思われる。

秋山他（2016）が「漢字の授業に携わる中で、学習者が各自の漢字語彙知識や運用力といった漢字能力を正確に把握できていないことが多いと感じた」と述べ、また平井（2016）も「いざ使用語彙・表現として文中で適切に使用できるようになるにはかなりの練習が必要だ」と述べているように、漢字教育においてアウトプットを重視すれば、以上のような欠陥の解消につながるのではないだろうか。

Ⅲ. パイロットプログラム〈漢字で読み解く日本〉

〈漢字で読み解く日本〉では、日本の文化・風俗・地理・歴史を理解するために必要な漢字語彙・固有名詞を学ぶことを目的とし、毎回教員がテーマを指定して、関連する漢字語彙を取り上げた。

受講生はカザフスタン、シンガポール、タイ（2人）、ブルガリア、インドネシア、ハンガリーの7人である。尚、シンガポールの学生は中国系ではなく、全員非漢字圏である。

テーマは、学生の反応を見ながら、日本における「世界遺産」「落語」「民話」「選挙」「和食文化」「マンガ」「川柳」「狂言と笑い」「年間行事」「怪談」「干支」「死生観」を取り上げた。

関連する語彙を確認し、映像を視聴したり、資料を見たりして、授業内で毎回議論の場を設けた。毎回の話し合いから語彙の文化背景を理解したところで、各学生がテーマを選び、プレゼンテーションを2回実施した。1回目のテーマは「和食文化」、2回目のテーマは日本文化と自文化との比較とした。

プレゼンテーションの際は評価シートにメモを取りながら聞くようにし、質疑の時間を設け、積極的に話し合い、その後自己評価と他者評価を行った。評価項目は、以下の通りである。

- ・語彙を用いた具体例があるか。
- ・構成がまとまっているか。
- ・原稿を読まないで、自分の言葉で説明できているか。
- ・声や目線など発表態度がいいか。

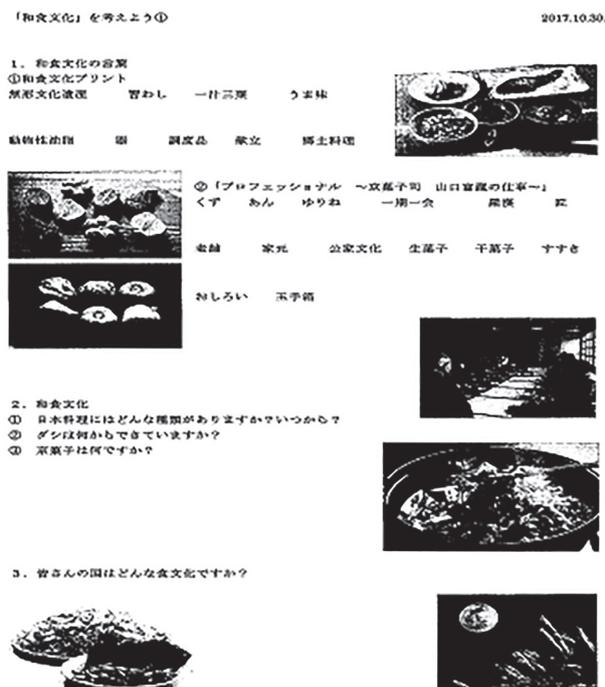


図1 授業で使用した筆者作成プリント

味噌煮込みうどんとは

名古屋市の名物として知られています。愛知県の郷土料理としても県内各地で食べられています。

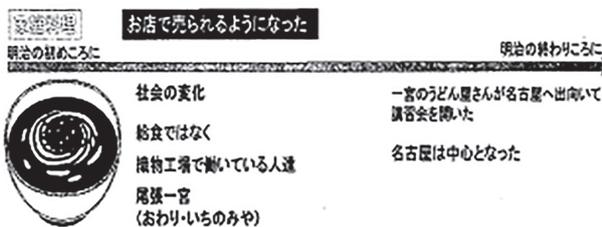


図2 学生の発表「味噌煮込みうどん」

- ・質疑応答に答えられているか。

受講生7人とクラスサイズがコンパクトであったため、質疑も活発となり、特に知らない食べ物や習慣に関しては「今度（自分で）見てきます」といった更なる関心へと結びついたようだった。コース終了前のセンター実施の授業アンケートからも「みんなと話し合ったりして、とても楽しいです」「色々な勉強や発見ができてよかったです」といった声があった。

IV. <同音異字語>の授業概要

「話す」に重点を置いたパイロットプログラムからの好評価を経て、<同音異字語>ではさらに「書く」「話す」というアウトプットを組み合わせた授業を実施した。

1) 受講生

受講生は、インド（2人）、カザフスタン、ベトナム（8人）、イタリア、ブラジル、ポーランド、スリランカ、香港、ドイツ、イギリス、タイ、台湾、中国、エジプト、アメリカの23人である。漢字圏と非漢字圏の混合クラスである。

2) 授業の流れ

<同音異字語>の授業は、「こうかい」（公開/後悔/航海）のように、よく使われるさまざまな同音異字語について意味や違いを学ぶことを目的としている。授業では、「読み」「書き」「選択」を中心とした漢字の練習プリントを配布した。問題の答えは、すべて学生を指名し、「読み」は主に口頭で、「書き」は全て板書で確認した。また漢字語彙知識や運用力の機会を増やすため、魚や植物に関連する漢字クイズや、同音異字語を使った駄洒落、料理に関連する漢字語彙を用いた文章なども取り入れた。尚、学生にはプレゼンテーションを1回課した。

同音異字語クラス番付

<p>目</p> <p>年をとったとき、都市に暮らしたくない</p> <p>国語教員は読売新聞の欄外を読んでいる</p> <p>賞状の分析作業は今日まで未完です</p>	<p>演習</p> <p>私は少女に招待されたが、行った後あの人の正体が変わってきた。質の幹で黒口しが変わった。</p> <p>大問</p> <p>この地はキスすると美しいお尻履に戻る</p> <p>小結</p> <p>背は演習のテーマに抗議した。</p>	<p>幕内</p> <p>あの定数は産をアームにする時歌を読んでいる</p> <p>風色鳥のために使っている生地について記事が書いてありました</p> <p>権力を握っている偉い人は平凡な人より権利があると思う（？）</p> <p>生まれたら王位を奪うかもしれない赤ちゃんが、母の胎内で機位になって死んだから、経ワッケー</p> <p>夜が明かす移動してから、毎日移動するのは大変になっちゃった。</p> <p>甘酸と有酸素と一緒に飲みに行ったら、舌裏が上がる。</p> <p>電気を付けてから、エンジンの位置を読みかけた。</p> <p>近畿に生んでいる人々が最悪を演じている。</p> <p>鼻に臭い嗅いでいるようにニキビがどんどん出てくる！</p> <p>学校の階段は怪談についての映画です。</p> <p>研削を削いている時女が来た。</p> <p>エアコング壊れたため、乗客たちの会議が階段で行われた。</p> <p>靴で海苔を付けても、あまり立派な食品にはできません。</p>	<p>幕外</p> <p>第一志願が落ちたら、死亡のような絶望。</p> <p>人生はあくまで人世のことだ。</p> <p>お丹の人たちの実勢がいい。</p> <p>鳥獣は如何（いか）？</p>
---	---	---	--



図3 学生たちの書いた同音異字語を使った駄洒落の番付

3) アウトプット事例

①見ないで板書確認

毎回授業内で同音異字語に関する練習プリントを学生に課した。その中で、書き20問と応用50問から、23人の学生に1人2～3回ずつ板書の機会を与えている。辞書の使用も認めているが、板書の際には見ないで書くことを勧めた。自分のプリントには正しく書けていても、前に出て見ないで板書する際間違えてしまったり、くせ字がひどくて他学生が読めなかったり、「、」があるか、線が長いかわいいか、みんなで一緒に確認することができた。教員から一方的に指導

するより自然とみんなで見つかるスタイルは、学生の意見や質問を多く引き出した。

②プレゼンテーション

学生たちにプレゼンテーションを1回課した。課題は以下の通りである。

「同音異字語・反対語・類語から、どれかひとつ選んで紹介しましょう。10分くらいで、ことば、意味、例文をわかりやすく説明してください。」

プレゼンテーションにおける独自性と積極性のために、授業で使用した漢字の練習プリントにある同音異字語の他に、幅を広げて、反対語・類語などからおもしろい漢字ペアがあれば、それも紹介してよいことにした。図4は学生の発表したスライドの一部である。課題の類語を選択し、「天気・天候・気象」の違いを取り上げていた。それぞれの読み方や例文を解説し、使い方の違いをまとめて発表した。



図4 学生の発表「天気・天候・気象」の違いについて

4) 成績評価

本授業では、受講生の主体性を重視した評価基準を設け、平常点（授業参加度・出席）60%、期末試験40%の成績評価を行った。受講生には、毎回必ず何字かの板書が求められる。また、プレゼンテーションも必ず1回は行い、それらは平常点の授業参加度に含めた。

プレゼンテーションの実施は、人数が多かったため、1回のテーマを2日に分けて行った。プレゼンテーションの評価については、2日のうちどちらか休まざるを得ない学生を考慮し、評価のばらつきをなくすため、今回は教師側からの評価のみとなった。評価項目は、〈漢字で読み解く日本〉と同様に、内容、発表の様子、質疑からの理解度で判定した。学生には発表を聞きながらメモするためのシートを配布した。

V. アンケートに基づく考察

〈同音異字語〉受講生23人のうち、帰国した学生を除く17人に独自のアンケートを実施した。

1) 練習プリントについて

漢字の読み書きで「書く」を中心とした練習プリントについて、勉強になったかという設問に9人が「強くそう思う」、7人が「そう思う」と回答していた。理由として、「N1を持っているも、パソコンで書く社会になっていて、なかなか漢字の練習をする機会が少ないです。そこで、プリントで復習ができました」「練習しないと覚えられない」といったコメントがあり、漢字は読めたらいいだけでなく「書く」ことも必要だと実感している学生が複数いることがわかった。非漢字圏の学生にとって漢字を「書く」ことは負担になるため避けようとしてしまう傾向が、他大学の授業でも実感としてあるが、学習意欲を持ち、「書く」ことを望んでいる学生も当然ながら存在するのである。

強くそう思う	9人
そう思う	7人
どちらとも言えない	1人
そうは思わない	0人
まったくそうは思わない	0人

2) 板書での確認について

練習プリントで板書して答えを確認したことは勉強になったかという設問では、7人が「強くそう思う」、7人が「そう思う」と回答している。理由として、「時々『この漢字知っているはず』と思ってしまって、辞書でもう一度チェックすることを油断してしまうので、板書して答えの確認が役に立ちます」「間違っただ漢字を見つけて、自分で直して覚えられた」「知っている漢字だと思ったが、書いてみると間違いが出てきた」「この確認は大事だと思います」といったコメントがあった。「書く」練習を取り上げる際は、板書での確認も求められていることがわかった。

強くそう思う	7人
そう思う	7人
どちらとも言えない	3人
そうは思わない	0人
まったくそうは思わない	0人

3) 自分のプレゼンテーションについて

自分のプレゼンテーションは勉強になったかという設問で、3人が「強くそう思う」、9人が「そう思う」と回答した。理由として、「わからない漢字について発表したので、勉強になりました」「プレゼンテーションのため、自分のわからないことばをきちんと調べなければならなかったから意味と使い方がわかるようになった」といったコメントがあった。一方、「どちらともいえない」「そうは思わない」を選択した学生からの理由は、「私はプレゼンテーションがちょっと苦手なんです、はっきり答えられないです」「大変適当にプレゼンテーションしたからです」といったコメントがあった。＜同音異字語＞ではプレゼンテーションに向けて内容を深める時間が十分取れなかったことが、取り組み姿勢に差を生じさせ、実際のプレゼンテーションの内容にもしっかり取り組んだ人と、手抜きになった人が出た要因になってしまったのではないかと推測される。

強くそう思う	3人
そう思う	9人
どちらとも言えない	4人
そうは思わない	1人
まったくそうは思わない	0人

4) 他学生のプレゼンテーションについて

他学生のプレゼンテーションを見るのは勉強になったかという設問では、5人が「強くそう思う」、9人が「そう思う」と回答した。理由としては、「友達は色々なことばを紹介してもらって、とてもおもしろくて、勉強になりました」「他のグループもきちんと準備して、比較も工夫したので、わからない言葉の使い方が

強くそう思う	5人
そう思う	9人
どちらとも言えない	1人
そうは思わない	2人
まったくそうは思わない	0人

わかるようになった」といった回答があった。一方、「どちらともいえない」「そうは思わない」を選択した学生からの理由は、「ちょっと速すぎたので、情報を覚える時間がありませんでしたから」といったコメントがあった。プレゼンテーションの内容をメモするシートを配布したが、質疑の時間を設けなかったことが、速すぎると感じる要因になっていたのではないかと思われる。

VI. おわりに

漢字教育において積極的にアウトプットを試みたことで、多くの示唆を得た。

課題としては、まずプレゼンテーションの評価方法が挙げられる。＜同音異字語＞ではクラスサイズが大きく、教師側からの評価のみとなり、自己評価・他者評価まで及ばなかった。評価は、課題に対する積極性と内容の正確性から判断したが、今後更に精緻かつ明確な基準が必要である。

また、＜漢字で読み解く日本＞のプレゼンテーションでは2回ともじっくり取り組み、各学生の完成度も高く、本人たちの満足度も高かったが、＜同音異字語＞では十分に時間が取れず、学生の成果及び満足度にばらつきがあった。今後、20人以上のクラスでどのようにプレゼンテーションをすればいいか考察していきたい。

一方、非漢字圏の学生は「書く」ことにもっと抵抗があるのではないかと予想していたが、「書く」ことに対して「勉強になった」と感じている学生が多かった。しかし、その際は必ず確認することが必要であることもわかった。今回は毎回板書で確認したが、板書で確認する利点は、自分の間違いだけでなく他学生の間違いに気づくこと、また他学生の漢字からいいところを学べる点にある。学生のアンケートからも、板書で「書く」ことは学生にとっても有意義と感じられていたことがうかがわれる。

漢字教育における、見ないで「書く」、みんなに「話す」ことを中心とした今回のプログラムの結果と反省を踏まえて、漢字教育におけるより効果的なアクティブラーニングの手法を追究していきたい。

参考文献・参考サイト

- 秋山麻衣耶他 (2016) 「中上級の漢字学習者による学習者主体の自己分析－自己と向き合う『セルフ・フィードバック』の実践－」『早稲田日本語教育実践研究』(4) pp.7-23.
- 稲葉みどり (2015) 「グローバル授業の舞台裏－教室外での日本語学習の取り組みの分析－」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』(5) pp.141-149.
- 河野貴範他 (2017) 「力覚及び擬似力覚提示機能を持つ漢字学習支援システムに関する研究」『日本教育工学会論文誌』(41) pp.77-80.

北川美香 (2016) 「漢字学習法：モチベーションとの関連で」『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』(14) pp.35-40.

関根健一 (2011) 『満点ゲットシリーズ ちびまる子ちゃんの似たもの漢字使い分け教室』集英社.

中岡樹里 (2017) 『『読み』を出発点とした漢字授業についての一考察』『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』(14) pp.31-43.

平井一樹 (2016) 「上級クラスにおける語彙・表現の習得拡充に関する一考察：慣用表現から難読漢字までを俯瞰・整理する」『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』(14) pp.77-88.

二村年哉他 (2017) 「非漢字圏漢字クラス・漢字圏漢字クラスの特徴に配慮した授業実践」『北海道大学国際教育研究センター紀要』(21) pp.34-47.

(こしば ゆうこ 本センター非常勤講師)

資料1 <漢字で読み解く日本>の「授業効果調査」(センター実施)の質問項目及び結果

<漢字で読み解く日本>の「授業効果調査」(センター実施)の質問項目及び結果(回答者7人)
※質問項目および選択肢は日本語・英語併記であるが、ここでは日本語のみ記載する。

Q1 授業に時間通りに出席した割合はどのくらいですか?
90% (6人)、89~80% (1人)、79~70% / 69~60% / 59%以下 (0人)

Q2 この授業の予習・復習にあてた時間は平均して一週間に何時間ですか?
4時間以上 (1人)、3時間以上4時間未満 (0人)、2時間以上3時間未満 (1人)、1時間以上2時間未満 (3人)、1時間未満 (2人)

Q3 授業の内容がよく理解できた。
強く思う (6人)、そう思う (1人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q4 教員の説明はわかりやすかった。
強く思う (6人)、そう思う (0人)、どちらともいえない (1人)、そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q5 教員は授業を通して学生の考え方や意見・感想などを把握しようとした。
強く思う (6人)、そう思う (1人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q6 教員の熱意が感じられた。
強く思う (6人)、そう思う (1人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q7 授業の難易度は?
非常に難しい (0人)、難しい (1人)、適切である (6人)、やさしい / 非常にやさしい (0人)

Q8 授業の量は?
非常に多い (0人)、多い (1人)、適切である (6人)、少ない / 非常に少ない (0人)

Q9 授業は体系的だった。
強く思う (4人)、そう思う (3人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q10 授業はシラバスに示されたとおりに行われた。
強く思う (4人)、そう思う (3人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q11 授業の組み立て、時間配分は適切だった。
強く思う (6人)、そう思う (1人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q12 授業に刺激され、より一層この科目に興味を持った。
強く思う (4人)、そう思う (3人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q13 この授業で多くの知識あるいは技能を得た。
強く思う (4人)、そう思う (3人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは思わない (0人)

Q14 この授業に対する総合評価は?
非常に良い (5人)、良い (2人)、どちらともいえない / 悪い / 非常に悪い (0人)

Q15 授業についてなど何か意見があれば書いてください。
・小柴先生の授業のおかげで9人の友達が増えました。授業もまいかい面白くて。授業を受けてよかったです。
・とてもおもしろい授業でした★色々な勉強や発見ができてよかったです!
・みんなと話し合ったりして、他の国の文化についてわかって、とても楽しいです。

資料2 <同音異字語>の「授業効果調査」(センター実施)の質問項目及び結果

<同音異字語>の「授業効果調査」(センター実施)の質問項目及び結果(回答者 17 人)

※ 質問項目および選択肢は日本語・英語併記であるが、ここでは日本語のみ記載する。

Q1 授業に時間通りに出席した割合はどのくらいですか?
90% (15 人)、89 ~ 80% (2 人)、79 ~ 70% /69 ~ 60% /59%以下 (0 人)

Q2 この授業の予習・復習にあてた時間は平均して一週間に何時間ですか?
4 時間以上 (1 人)、3 時間以上 4 時間未満 (1 人)、2 時間以上 3 時間未満 (4 人)、
1 時間以上 2 時間未満 (6 人)、1 時間未満 (5 人)

Q3 授業の内容がよく理解できた。
強く思う (12 人)、そう思う (5 人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは
思わない (0 人)

Q4 教員の説明はわかりやすかった。
強く思う (10 人)、そう思う (6 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)

Q5 教員は授業を通して学生の考え方・意見・感想などを把握しようと努めた。
強く思う (11 人)、そう思う (5 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)

Q6 教員の熱意が感じられた。
強く思う (14 人)、そう思う (8 人)、どちらともいえない / そうは思わない / まったくそうは
思わない (0 人)

Q7 授業の難易度は?
非常に難しい (1 人)、難しい (5 人)、適切である (11 人)、やさしい / 非常にやさしい (0 人)

Q8 授業の量は?
非常に多い (2 人)、多い (8 人)、適切である (12 人)、少ない / 非常に少ない (0 人)

Q9 授業は体系的だった。
強く思う (10 人)、そう思う (6 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)

Q10 授業はシラバスに示されたとおりに行われた。
強く思う (10 人)、そう思う (5 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)、無記入 (1 人)

Q11 授業の組み立て、時間配分は適切だった。
強く思う (12 人)、そう思う (4 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)

Q12 授業に刺激され、より一層この科目に興味を持った。
強く思う (7 人)、そう思う (7 人)、どちらともいえない (2 人)、そうは思わない (1 人)、
まったくそうは思わない (0 人)

Q13 この授業で多くの知識あるいは技能を得た。
強く思う (8 人)、そう思う (8 人)、どちらともいえない (1 人)、そうは思わない / まった
くそうは思わない (0 人)

Q14 この授業に対する総合評価は?
非常に良い (11 人)、良い (5 人)、どちらともいえない (1 人)、悪い / 非常に悪い (0 人)

Q15 授業についてなど何か意見があれば書いてください。
・素晴らしいかったです。
・先生がやさしかったです。
・授業の内容はとても良いでした。
・漢字の数が多すぎたかもしれませんが、先生はとても良い先生でした！
・先生の知識が素晴らしいです。
・能力試験のためにもこのコースで勉強したことが役に立ちました。とても楽しかったです。

資料3 <同音異字語>アンケート (筆者作成)

<同音異字語>アンケート (回答者 17 人)

① 日本語能力試験は何級をえていますか?
N3 (1 人) N2 (13 人) N1 (1 人) ない (2 人)

② 練習プリントは勉強になった。
強く思う (9 人) そう思う (7 人) どちらともいえない (1 人) そうは思わない (0 人)
まったくそうは思わない (0 人)
理由:
・まだ知らなかったことがたくさんありましたから。
・N1 を持っている、パソコンで書く機会になっていて、なかなか漢字の練習をする機会が少ないで
す。そこで、プリントで復習ができました。
・練習しないと覚えられない。
・N1 と N2 のレベルだからです。私に合うと思います。
・試験勉強で何回も見ました。
・練習して、先生にチェックしてもらえましたから。
・まったく知らない言葉がたくさんあったので、能力試験のときに使うことができました。
・知らない言葉をたくさん学んだ。
・プリントはわかりやすく、体系的にまとめてくれるので、勉強しやすいです。それにきちんと例と給
もあるの、いいと思うのです。
・新しい漢字と特別のある漢字が入っていますので、身に付きました。
・勉強したことを復習することができます。
・漢字が多くて、研究に忙しくて、勉強する時間はあまりありませんでした。
・多数の漢字が出てきて勉強になりましたが、漢字の数が多すぎるとは思いません。
・前から習った漢字を再び復習できたと思います。

③ 紙回、板書して答えを確認したことは勉強になった。
強く思う (7 人) そう思う (7 人) どちらともいえない (3 人) そうは思わない (0 人)
まったくそうは思わない (0 人)
理由:
・わかりやすいから。
・覚えるのに役に立ちましたからです。
・時々板書したとき、間違ったことがありました。そのとき書き直さずことができましたからです。
・知らない言葉をたくさん学んだ。
・自分のプレゼンテーションをして、自分の良い点やもつと勉強しなければならぬことがわかっ
てきた。
・時々難しい漢字があるので、答えを書いてもらって、勉強になりました。
・時々「この漢字知っているはず」と思ってしまっ、辞書でもう一度チェックすることを油断し
しまうので、板書して答えの確認が役に立ちます。
・間違った漢字を見つけて、自分で直して覚えられた。
・知っている漢字だと思ったが、書いてみると間違いが出てきた。
・この確認は大事だと思います。
・書いたら、自分の間違ったことを教えてくれた。

④ 自分のプレゼンテーションは、勉強になった。
強く思う (3 人) そう思う (9 人) どちらともいえない (4 人) そうは思わない (1 人)
まったくそうは思わない (0 人)

理由:
・発表した感じについて、もっと深く調べて、紹介できたと思います。
・普通に使わない参考資料を使いましたから。例えば、インターネット辞書。
・プレゼンテーション力を鍛えるから。
・さまざま調べなければなりません。
・間違いはありますが、簡単な言葉にも場合によって使うところがあるとわかったから
です。
・日常生活で役に立つ。
・よく調べて勉強になった。
・わからない漢字について発表したため、勉強になりました。
・プレゼンテーションのため、自分のわからないことをきちんと調べなければならぬから意味
と使い方がわかるようになった。
・友達の良い点がわかって、自分に合うことを今度応用できる。
・自分が言いたいことを他の人にうまく伝えるかどうか確認できる。
・私はプレゼンテーションがちょっと苦手なんですけど、はっきり答えられないです。
・大変適当にプレゼンテーションしたからです。

⑤ 友達のプレゼンテーションを見るのは、勉強になった。
強く思う (5 人) そう思う (9 人) どちらともいえない (1 人) そうは思わない (2 人)
まったくそうは思わない (0 人)

理由:
・さまざまな知識が得られたと思います。
・集中力が上がることも、復習して分析力も上がる。
・友達は色々なことを紹介してもらって、とてもおもしろくて、勉強になりました。
・知らなかった内容が多くて、すぐに役に立つと思った。
・自分のわからないことを詳しく説明してくれたから。
・新しい漢字を紹介した。
・言葉の説明は詳しくだったので、勉強になりました。
・今振り返ると内容はあまり覚えていないですが、メモときましたからいつでも確認できます！
・他のグループもきちんと準備して、比較も工夫したので、わからない言葉の使い方がわかるようにな
った。
・色々な知識を身に付けることができた。
・色々な面白い例と今まで気づいてなかった漢字も紹介してくれて、発表の行い方もうまいです。
・あまり覚えてない。
・ちょっと遅すぎたので、情報を覚える時間がありませんでしたから。